



「教養教育としてのカフェ」研究 : カフェ・ネットワークの構築とその意義

著者	三角 明子, 植木 献, 上野 寛子, 猪瀬 浩平
雑誌名	明治学院大学教養教育センター附属研究所年報 : synthesis = The annual report of the MGU Institute for Liberal Arts
巻	2015
ページ	44-45
発行年	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10723/2715

「教養教育としてのカフェ」研究： カフェ・ネットワークの構築とその意義

プロジェクトメンバー：三角明子*、植木 献、上野寛子、猪瀬浩平（*：代表者）

〔猪瀬〕

2015年11月に、病院と社会を接合させるプロジェクトである「半外プロジェクト」の主催者である前川紘士氏、釜ヶ崎で貧困状況にある高齢者とアートプロジェクトを実践する原田麻以氏との意見交換を行うと共に、京都市内のカフェの空間をアートギャラリーとして活用するギャラリーPARCの視察を行った。

〔植木〕

本研究プロジェクトにおいては、授業時間外で学習者が自由に議論し、問題を発見・解決するための場（カフェ）をキャンパス内外を結び、いかに形成するかを探求してきたが、2011年以来の様々な取り組みから見てきたことのひとつは、飲食などの身体経験を媒介した場が議論の多様性を許容しやすいということである。

飲食が親密な関係を構築することは、経験則として承認されやすいものであるが、それが高等教育の中でいかなる役割を持つべきか検討するための事例を協同研究のかたちで4年間蓄積できたことは、本プロジェクトの成果である。

植木は昨年度特に横浜学生課との連携で、朝カフェや料理教室などを開催したが、学生たちは学部学科を越えた関係を築いていくと、逆に自らの専攻と関連させて物事をとらえたり、発言しようとする傾向が強まるように見えた。一度基礎的、身体的な共有体験を経た方が、相手に対する信頼感が増し、自由に自らの立場を表明しやすく、また異なる他者への感受性も高まるといえるのであれば、学問共同体としての大学のあり方を問う契機になるだろう。

また以前に猪瀬、植木が行ったプロジェクトにおいても、農的な経験が多様性を許容する一つの基盤となりうることを確認されており、農・食による多様性創出の可能性を近くまとめて報告したい。

〔上野〕

1) 学生活性型カフェ「きみは何のために働くのか！ー社会の一員として生きていくために重要なことー」(6月8日)を開催。大卒3年を経て各業界で活躍しておられる社会人4名を講師に迎え(SE2名、デザイナー、新人教育担当者)、人生における「仕事」の位置づけや社会人として重要な考え方、社会的役割についてのお話を聴き、学生たちの悩みを解決する糸口を見出し、数年後の自分を描くヒントを見つけるためのワークショップに27名の学生が参加した。

2) LGBTワークショップ第1弾「LGBTを考えようーあなたが本当に好きな人はだれ？ー」(6月12日)を開催。「LGBT」という言葉は普及してきたが、世間の壁は高く、まだまだ偏見や差別が根強い。GID元男性である深谷怜代氏に国内外の実態を紹介いただき、新しい価値観の創造を参加者とともに考えていくワークショップに41名の学生が参加した。

3) LGBTワークショップ第2弾「自分の性を考えようー自分の性別は自分で決める！！ー」(6月22日)を開催。多様な性のあり方について、深谷泰司氏(=深谷怜代氏)に実例を御紹介いただきながら、セクシュアリティについて考えるワークショップに14名の学生が参加した。

4) LGBTワークショップ第3弾「まわりにいるよ、LGBTs！」(10月5日)を本学セクシュアリティサークル「カラフル」との共催として開催。実際にLGBTsとして社会で活躍されている方2名のトークセッションを行い、その後ワールドカフェ形式で意見交換や感想の共有を行った。講師は北夙川不可止氏と池田季美枝氏である。18名の学生が参加した。

今年度は学生が自分の生き方について具体的に考えたり、新たな視点の習得を目標とし、社会においてさまざまな道で歩まれている方々との交流を行った。学生だけでなく、職員や教員の参加もあり、日本社会における実態や課題について把握し、みんなで議論できたことは大変有意義であった。さまざまな生き方を尊重できる人間を増やしていくために、今後もこのような形での企画は有効であると考えている。

(三角)

・「自分の〈強み〉を考えよう」

春季休暇中に本学学生および一般を対象としたワークショップを開催予定。

本学学生にはあらかじめバッキングム他(田口俊樹訳)『さあ、才能(じぶん)に目覚めようーあなたの5つの強みを見だし、活かす』を配布する。この書籍に付属するストレングス・ファイnderテストのアクセスキーを利用してウェブサイト上で分析を受けたうえでワークショップに参加、自分の〈強み〉について考え語り合う機会をもつ。

一般参加者を受け入れることにより、〈強み〉とこれからの生き方、職業選択などの関連についての話しあいに厚みが出るのが期待される。